

C—60 ダーツに関する研究(第12報)
—ブラウスのダーツについての知見
(その2)—

高知女大家政 市川 一夫
村田 菊子
○安岡 真理

1. 筆者等は先に(昭和41年5月)未婚女子の胸部、特に乳房部を中心とした“ふくらみ”につき理論的に究明、同時に実態をも調査の上、脇線にダーツ中心線がほぼ直角な脇ダーツについての理論的、実験的考察を行なった。

本報ではダーツ中心線が斜に設定される場合のダーツについて考察を行い、第2報において発表した斜に設定せられるダーツの理論の実験的検討を応用例につき行うのがこの研究の目的である。

2. ダーツ中心線が設定線に直角の場合はでき上り新設定線の起点間の長さは、元の設定線の長さより短縮される。併し中心線が斜に設定されるに従い、でき上り起点間の長さは長くなり、遂には等しく、それを過ぎると反対に長くなる。先に短縮法の一例として両起点を動かす方法をあげたが、本報では一起点のみを動かす方法をとる。

次に従来より行われている折りたたみ、そして切り開く方法につき検討、これにかえるに作図法をもってする方法を選び、大量生産方式に都合のよい方法になるように試みる。

3. 斜に設定されたダーツの新設定線の長さは第2報の結果より算出、長くなった量が分る。それを短縮するため、でき上り新設定線の長さが所要量になるように計算式より短縮量を求め、作図できた。

次には切り開いた形を解析、作図上より容易に求められた。